臺灣新民報 夕刊

（第二期）（原臺灣紀錄）（昭和十一年（一九三六）五月九日第三種郵便物認可）

昭和十二年十月十四日（木曜日）

十月十三日

夕刊定價一部二錢

編輯兼發行人 佐々木 修

發行所 臺灣新民報社

臺北市表町二丁目一番地（電話局番號二八三五番）

臺中市寿町六丁目（電話局番號二〇七番）

臺南市末廣町二丁目（電話局番號二〇番）

花蓮港街吉野町（電話局番號一〇番）

大阪支局（大阪市西區阿波座堀通一丁目大阪ビルヂング内）

東京支局（東京市芝區櫻田本郷町三丁目）

敵の高射砲彈は 遙か上空で炸裂

南京防空陣の狼狽

我が爆撃隊指揮官の話

【○○十二日發同盟】中南支の空襲に關大な戰功を樹てつつある○○海軍航空隊の第十連隊一人として瞬りやかに手柄話をする者も無く、ただ眞々として與へられた使命の遂行に勵んでゐるが十二日十一機指揮官○○少佐○○大尉は記者のたつての懇望に應じ新しく次のやうな中南支戰線飛行の感想を語らした

×　×　×

一回目に出撃の時は餘り緊張もせず、いつもの通りに落ちついてやつた、だが二回目に出撃した時は、さすがに多少緊張した氣持ちがした

×　×　×

いつも偉ら十月は支那に關する限りでは氣候が今年は非常に良好だと思ひ、きのふも敵の軍事施設を爆撃したが、敵の高射砲彈は遙か上空で炸裂するので、我が爆撃隊は安全に爆撃を行ひ得た、敵の高射砲彈は我が爆撃隊の飛行高度に達しないのだ

綏遠城膝下に日章旗飜へる

東大黒河を占領す

【前日廟子にて十二日發同盟特派員】中島先遣部隊は十一日前白廟子附近の支那騎兵隊を包圍攻撃急追し十二日午後四時四十分には綏遠東南方一里半の東大黒河の敵陣に迫り川村部隊の奇襲戰團に依り敵を殲滅し午後五時二十分同地を完全に占領し綏遠城の膝下に日章旗を飜へした

【前白廟子十二日發同盟特派員】十二日夕刻綏遠城東南二里半、東大黒河の線に進出した我が中島部隊は引き續んに敵陣に肉薄攻撃を加へつつあり夕陽迫る前に敵の一部を殘し相當激戰の後敵を一掃し相當の戰果である、日暮れて降雪俄然まず寒氣烈なるも我軍の士氣旺盛

【前白廟子十二日發同盟特派員】十二日夕刻綏遠城東南二里半、東大黒河の線に進出した我が中島部隊は引き續んに敵陣に肉薄攻撃を加へつつあり夕陽迫る前に敵の一部を殘し相當激戰の後敵を一掃し相當の戰果である、日暮れて降雪俄然まず寒氣烈なるも我軍の士氣旺盛

雪原を冒し猛攻撃開始

寒氣烈なるも我軍の士氣旺盛

【前白廟子十二日發同盟特派員】十二日午前綏遠城東南二里半、東大黒河の線に進出した我が中島部隊は引き續んに敵陣に肉薄攻撃を加へつつあり夕陽迫る前に敵の一部を殘し相當激戰の後敵を一掃し相當の戰果である、日暮れて降雪俄然まず寒氣烈なるも我軍の士氣旺盛

馬占山大狼狽

內蒙軍が壓迫

【〇〇特派員】正太線より太原方面に配置中の我が〇〇部隊に對し十二日午前九時半頃最初の敵彈が落下し午後一時半頃より敵は約一千の兵力を以て我が〇〇部隊に壓迫を加へ來つたので我が〇〇部隊は之を迎へ撃ちつつ後退を開始したが敵は益々猛攻を加へ來つたので我が〇〇部隊は之を迎へ撃ちつつ後退を開始したが敵は益々猛攻を加へ來つたので我が〇〇部隊は之を迎へ撃ちつつ後退を開始した

正太線を爆撃

敵の退路を遮斷

【〇〇特派員】正太線より太原方面に配置中の我が〇〇部隊に對し十二日午前九時半頃最初の敵彈が落下し午後一時半頃より敵は約一千の兵力を以て我が〇〇部隊に壓迫を加へ來つたので我が〇〇部隊は之を迎へ撃ちつつ後退を開始したが敵は益々猛攻を加へ來つたので我が〇〇部隊は之を迎へ撃ちつつ後退を開始した

一兵一馬も殘さず

敵騎兵一箇團を殲滅

【前白廟子十二日發同盟特派員】綏遠城○○團の快速部隊主力は綏遠の西南にある支那軍約三万を敗走せしめ十二日拂曉○○を進發し

【前白廟子十二日發同盟特派員】綏遠城○○團の快速部隊主力は綏遠の西南にある支那軍約三万を敗走せしめ十二日拂曉○○を進發し

堅陣二萬の敵撃滅へ

○○團の快速部隊の主力

山嶺を越え六十粁の進軍

【前白廟子十二日發同盟特派員】綏遠城○○團の快速部隊主力は綏遠の西南にある支那軍約三万を敗走せしめ十二日拂曉○○を進發し

【前白廟子十二日發同盟特派員】綏遠城○○團の快速部隊主力は綏遠の西南にある支那軍約三万を敗走せしめ十二日拂曉○○を進發し

大名飛行場を空爆

【天津十二日發同盟】わが航空部隊の猛本部隊は十二日午頃突如河北省保南部山東省境近く大名飛行場を空襲し格納庫内の敵機三百を破壊し更に附近の新造格納庫數棟に投下し大打撃を與へた敵納庫には目下重爆をあげて昨今に於ける、大名飛行場は河北に於ける敵の有力なる飛行根據地である

【天津十二日發同盟】わが航空部隊の猛本部隊は十二日午頃突如河北省保南部山東省境近く大名飛行場を空襲し格納庫内の敵機三百を破壊し更に附近の新造格納庫數棟に投下し大打撃を與へた敵納庫には目下重爆をあげて昨今に於ける、大名飛行場は河北に於ける敵の有力なる飛行根據地である

寧晉を占領

大野、片桐の兩部隊

【天津十二日發同盟】石家莊南方十五粁に在る寧晉の敵陣地は大野、片桐兩部隊の一部は十二日午後九時寧晉を占領せり又保南、佐々木兩部隊は一部を以て同日正午頃寧晉北方六粁の敵を攻撃し敵潰乱し之を追撃して午後四時半頃寧晉に入城した、即日の戰果は敵の遺棄死體百數十、鹵獲品は野砲二門、迫撃砲二門、機關銃十數挺、小銃彈數千發、其の他多數の軍需品である

【天津十二日發同盟】石家莊南方十五粁に在る寧晉の敵陣地は大野、片桐兩部隊の一部は十二日午後九時寧晉を占領せり又保南、佐々木兩部隊は一部を以て同日正午頃寧晉北方六粁の敵を攻撃し敵潰乱し之を追撃して午後四時半頃寧晉に入城した、即日の戰果は敵の遺棄死體百數十、鹵獲品は野砲二門、迫撃砲二門、機關銃十數挺、小銃彈數千發、其の他多數の軍需品である

美化鎭を占領

一千の敵を屠る

【新榮十二日發同盟】馬廠西南を守備してゐる柏崎部隊は十二日午後美化鎭（趙州北方）附近において約二千の敵と遭遇、部隊の突擊、横木に拠り頑強に抵抗する敵を一氣に撃破し敵陣を突破して一名も殘さずこれを殲滅し同鎭に入城、更に同夕刻迄に同鎭の東北方二里北部に陣地を占領し敵の反撃に備へた、美化鎭の戰闘で わが方

【新榮十二日發同盟】馬廠西南を守備してゐる柏崎部隊は十二日午後美化鎭（趙州北方）附近において約二千の敵と遭遇、部隊の突擊、横木に拠り頑強に抵抗する敵を一氣に撃破し敵陣を突破して一名も殘さずこれを殲滅し同鎭に入城、更に同夕刻迄に同鎭の東北方二里北部に陣地を占領し敵の反撃に備へた、美化鎭の戰闘で わが方

戰傷陸海軍將兵に御見舞の煙草御下賜

畏し・皇族方の御仁慈

【東京十二日發】御慰問の御品を御下賜あらせられたが陸に氣の毒な傷病將兵に對しては深く御心を注がせられ皇后陛下には宮中にて皇后陛下の御手傷ひを遊ばされ又各宮殿下方にも赤十字

【東京十二日發】御慰問の御品を御下賜あらせられたが陸に氣の毒な傷病將兵に對しては深く御心を注がせられ皇后陛下には宮中にて皇后陛下の御手傷ひを遊ばされ又各宮殿下方にも赤十字

國民精神總動員へ

銃後の國民の意氣高く

國民朝禮に 週間の幕開く

【東京十二日發】第一回國民精神總動員週間は十四日より二十日迄の一週間實施されることになつてゐるので內閣では多數參加されんことを期してゐるが尚國民精神總動員實施要綱に於ては國民各自が自發的に國民精神總動員の趣旨を體得して一致協力しその實行を期することを要望してゐる

【東京十二日發】第一回國民精神總動員週間は十四日より二十日迄の一週間實施されることになつてゐるので內閣では多數參加されんことを期してゐるが尚國民精神總動員實施要綱に於ては國民各自が自發的に國民精神總動員の趣旨を體得して一致協力しその實行を期することを要望してゐる

基隆市

【基隆十二日發】基隆都市計畫第一回の十三日、第二回の十四日、第三回の十五日、第四回の十六日、第五回の十七日、第六回の十八日、第七回の十九日、第八回の二十日、第九回の二十一日、第十回の二十二日、第十一回の二十三日、第十二回の二十四日、第十三回の二十五日、第十四回の二十六日、第十五回の二十七日、第十六回の二十八日、第十七回の二十九日、第十八回の三十日、第十九回の三十一日、第二十回の十一月一日、第二十一回の二日、第二十二回の三日、第二十三回の四日、第二十四回の五日、第二十五回の六日、第二十六回の七日、第二十七回の八日、第二十八回の九日、第二十九回の十日、第三十回の十一日、第三十一回の十二日、第三十二回の十三日、第三十三回の十四日、第三十四回の十五日、第三十五回の十六日、第三十六回の十七日、第三十七回の十八日、第三十八回の十九日、第三十九回の二十日、第四十回の二十一日、第四十一回の二十二日、第四十二回の二十三日、第四十三回の二十四日、第四十四回の二十五日、第四十五回の二十六日、第四十六回の二十七日、第四十七回の二十八日、第四十八回の二十九日、第四十九回の三十日、第五十回の三十一日、第五十一回の十一月一日、第五十二回の二日、第五十三回の三日、第五十四回の四日、第五十五回の五日、第五十六回の六日、第五十七回の七日、第五十八回の八日、第五十九回の九日、第六十回の十日、第六十一回の十一日、第六十二回の十二日、第六十三回の十三日、第六十四回の十四日、第六十五回の十五日、第六十六回の十六日、第六十七回の十七日、第六十八回の十八日、第六十九回の十九日、第七十回の二十日、第七十一回の二十一日、第七十二回の二十二日、第七十三回の二十三日、第七十四回の二十四日、第七十五回の二十五日、第七十六回の二十六日、第七十七回の二十七日、第七十八回の二十八日、第七十九回の二十九日、第八十回の三十日、第八十一回の三十一日、第八十二回の十二月一日、第八十三回の二日、第八十四回の三日、第八十五回の四日、第八十六回の五日、第八十七回の六日、第八十八回の七日、第八十九回の八日、第九十回の九日、第九十一回の十日、第九十二回の十一日、第九十三回の十二日、第九十四回の十三日、第九十五回の十四日、第九十六回の十五日、第九十七回の十六日、第九十八回の十七日、第九十九回の十八日、第百回の十九日、第百一回の二十日、第百二回の二十一日、第百三回の二十二日、第百四回の二十三日、第百五回の二十四日、第百六回の二十五日、第百七回の二十六日、第百八回の二十七日、第百九回の二十八日、第百十回の二十九日、第百十一回の三十日、第百十二回の三十一日、第百十三回の十二月一日、第百十四回の二日、第百十五回の三日、第百十六回の四日、第百十七回の五日、第百十八回の六日、第百十九回の七日、第百二十回の八日、第百二十一回の九日、第百二十二回の十日、第百二十三回の十一日、第百二十四回の十二日、第百二十五回の十三日、第百二十六回の十四日、第百二十七回の十五日、第百二十八回の十六日、第百二十九回の十七日、第百三十回の十八日、第百三十一回の十九日、第百三十二回の二十日、第百三十三回の二十一日、第百三十四回の二十二日、第百三十五回の二十三日、第百三十六回の二十四日、第百三十七回の二十五日、第百三十八回の二十六日、第百三十九回の二十七日、第百四十回の二十八日、第百四十一回の二十九日、第百四十二回の三十日、第百四十三回の三十一日、第百四十四回の十二月一日、第百四十五回の二日、第百四十六回の三日、第百四十七回の四日、第百四十八回の五日、第百四十九回の六日、第百五十回の七日、第百五十一回の八日、第百五十二回の九日、第百五十三回の十日、第百五十四回の十一日、第百五十五回の十二日、第百五十六回の十三日、第百五十七回の十四日、第百五十八回の十五日、第百五十九回の十六日、第百六十回の十七日、第百六十一回の十八日、第百六十二回の十九日、第百六十三回の二十日、第百六十四回の二十一日、第百六十五回の二十二日、第百六十六回の二十三日、第百六十七回の二十四日、第百六十八回の二十五日、第百六十九回の二十六日、第百七十回の二十七日、第百七十一回の二十八日、第百七十二回の二十九日、第百七十三回の三十日、第百七十四回の三十一日、第百七十五回の十二月一日、第百七十六回の二日、第百七十七回の三日、第百七十八回の四日、第百七十九回の五日、第百八十回の六日、第百八十一回の七日、第百八十二回の八日、第百八十三回の九日、第百八十四回の十日、第百八十五回の十一日、第百八十六回の十二日、第百八十七回の十三日、第百八十八回の十四日、第百八十九回の十五日、第百九十回の十六日、第百九十一回の十七日、第百九十二回の十八日、第百九十三回の十九日、第百九十四回の二十日、第百九十五回の二十一日、第百九十六回の二十二日、第百九十七回の二十三日、第百九十八回の二十四日、第百九十九回の二十五日、第二百回の二十六日、第二百一回の二十七日、第二百二回の二十八日、第二百三回の二十九日、第二百四回の三十日、第二百五回の三十一日、第二百六回の十二月一日、第二百七回の二日、第二百八回の三日、第二百九回の四日、第二百十回の五日、第二百十一回の六日、第二百十二回の七日、第二百十三回の八日、第二百十四回の九日、第二百十五回の十日、第二百十六回の十一日、第二百十七回の十二日、第二百十八回の十三日、第二百十九回の十四日、第二百二十回の十五日、第二百二十一回の十六日、第二百二十二回の十七日、第二百二十三回の十八日、第二百二十四回の十九日、第二百二十五回の二十日、第二百二十六回の二十一日、第二百二十七回の二十二日、第二百二十八回の二十三日、第二百二十九回の二十四日、第二百三十回の二十五日、第二百三十一回の二十六日、第二百三十二回の二十七日、第二百三十三回の二十八日、第二百三十四回の二十九日、第二百三十五回の三十日、第二百三十六回の三十一日、第二百三十七回の十二月一日、第二百三十八回の二日、第二百三十九回の三日、第二百四十回の四日、第二百四十一回の五日、第二百四十二回の六日、第二百四十三回の七日、第二百四十四回の八日、第二百四十五回の九日、第二百四十六回の十日、第二百四十七回の十一日、第二百四十八回の十二日、第二百四十九回の十三日、第二百五十回の十四日、第二百五十一回の十五日、第二百五十二回の十六日、第二百五十三回の十七日、第二百五十四回の十八日、第二百五十五回の十九日、第二百五十六回の二十日、第二百五十七回の二十一日、第二百五十八回の二十二日、第二百五十九回の二十三日、第二百六十回の二十四日、第二百六十一回の二十五日、第二百六十二回の二十六日、第二百六十三回の二十七日、第二百六十四回の二十八日、第二百六十五回の二十九日、第二百六十六回の三十日、第二百六十七回の三十一日、第二百六十八回の十二月一日、第二百六十九回の二日、第二百七十回の三日、第二百七十一回の四日、第二百七十二回の五日、第二百七十三回の六日、第二百七十四回の七日、第二百七十五回の八日、第二百七十六回の九日、第二百七十七回の十日、第二百七十八回の十一日、第二百七十九回の十二日、第二百八十回の十三日、第二百八十一回の十四日、第二百八十二回の十五日、第二百八十三回の十六日、第二百八十四回の十七日、第二百八十五回の十八日、第二百八十六回の十九日、第二百八十七回の二十日、第二百八十八回の二十一日、第二百八十九回の二十二日、第二百九十回の二十三日、第二百九十一回の二十四日、第二百九十二回の二十五日、第二百九十三回の二十六日、第二百九十四回の二十七日、第二百九十五回の二十八日、第二百九十六回の二十九日、第二百九十七回の三十日、第二百九十八回の三十一日、第二百九十九回の十二月一日、第三百回の二日、第三百一回の三日、第三百二回の四日、第三百三回の五日、第三百四回の六日、第三百五回の七日、第三百六回の八日、第三百七回の九日、第三百八回の十日、第三百九回の十一日、第三百十回の十二日、第三百十一回の十三日、第三百十二回の十四日、第三百十三回の十五日、第三百十四回の十六日、第三百十五回の十七日、第三百十六回の十八日、第三百十七回の十九日、第三百十八回の二十日、第三百十九回の二十一日、第三百二十回の二十二日、第三百二十一回の二十三日、第三百二十二回の二十四日、第三百二十三回の二十五日、第三百二十四回の二十六日、第三百二十五回の二十七日、第三百二十六回の二十八日、第三百二十七回の二十九日、第三百二十八回の三十日、第三百二十九回の三十一日、第三百三十回の十二月一日、第三百三十一回の二日、第三百三十二回の三日、第三百三十三回の四日、第三百三十四回の五日、第三百三十五回の六日、第三百三十六回の七日、第三百三十七回の八日、第三百三十八回の九日、第三百三十九回の十日、第三百四十回の十一日、第三百四十一回の十二日、第三百四十二回の十三日、第三百四十三回の十四日、第三百四十四回の十五日、第三百四十五回の十六日、第三百四十六回の十七日、第三百四十七回の十八日、第三百四十八回の十九日、第三百四十九回の二十日、第三百五十回の二十一日、第三百五十一回の二十二日、第三百五十二回の二十三日、第三百五十三回の二十四日、第三百五十四回の二十五日、第三百五十五回の二十六日、第三百五十六回の二十七日、第三百五十七回の二十八日、第三百五十八回の二十九日、第三百五十九回の三十日、第三百六十回の三十一日、第三百六十一回の十二月一日、第三百六十二回の二日、第三百六十三回の三日、第三百六十四回の四日、第三百六十五回の五日、第三百六十六回の六日、第三百六十七回の七日、第三百六十八回の八日、第三百六十九回の九日、第三百七十回の十日、第三百七十一回の十一日、第三百七十二回の十二日、第三百七十三回の十三日、第三百七十四回の十四日、第三百七十五回の十五日、第三百七十六回の十六日、第三百七十七回の十七日、第三百七十八回の十八日、第三百七十九回の十九日、第三百八十回の二十日、第三百八十一回の二十一日、第三百八十二回の二十二日、第三百八十三回の二十三日、第三百八十四回の二十四日、第三百八十五回の二十五日、第三百八十六回の二十六日、第三百八十七回の二十七日、第三百八十八回の二十八日、第三百八十九回の二十九日、第三百九十回の三十日、第三百九十一回の三十一日、第三百九十二回の十二月一日、第三百九十三回の二日、第三百九十四回の三日、第三百九十五回の四日、第三百九十六回の五日、第三百九十七回の六日、第三百九十八回の七日、第三百九十九回の八日、第四百回の九日、第四百一回の十日、第四百二回の十一日、第四百三回の十二日、第四百四回の十三日、第四百五回の十四日、第四百六回の十五日、第四百七回の十六日、第四百八回の十七日、第四百九回の十八日、第四百十回の十九日、第四百十一回の二十日、第四百十二回の二十一日、第四百十三回の二十二日、第四百十四回の二十三日、第四百十五回の二十四日、第四百十六回の二十五日、第四百十七回の二十六日、第四百十八回の二十七日、第四百十九回の二十八日、第四百二十回の二十九日、第四百二十一回の三十日、第四百二十二回の三十一日、第四百二十三回の十二月一日、第四百二十四回の二日、第四百二十五回の三日、第四百二十六回の四日、第四百二十七回の五日、第四百二十八回の六日、第四百二十九回の七日、第四百三十回の八日、第四百三十一回の九日、第四百三十二回の十日、第四百三十三回の十一日、第四百三十四回の十二日、第四百三十五回の十三日、第四百三十六回の十四日、第四百三十七回の十五日、第四百三十八回の十六日、第四百三十九回の十七日、第四百四十回の十八日、第四百四十一回の十九日、第四百四十二回の二十日、第四百四十三回の二十一日、第四百四十四回の二十二日、第四百四十五回の二十三日、第四百四十六回の二十四日、第四百四十七回の二十五日、第四百四十八回の二十六日、第四百四十九回の二十七日、第四百五十回の二十八日、第四百五十一回の二十九日、第四百五十二回の三十日、第四百五十三回の三十一日、第四百五十四回の十二月一日、第四百五十五回の二日、第四百五十六回の三日、第四百五十七回の四日、第四百五十八回の五日、第四百五十九回の六日、第四百六十回の七日、第四百六十一回の八日、第四百六十二回の九日、第四百六十三回の十日、第四百六十四回の十一日、第四百六十五回の十二日、第四百六十六回の十三日、第四百六十七回の十四日、第四百六十八回の十五日、第四百六十九回の十六日、第四百七十回の十七日、第四百七十一回の十八日、第四百七十二回の十九日、第四百七十三回の二十日、第四百七十四回の二十一日、第四百七十五回の二十二日、第四百七十六回の二十三日、第四百七十七回の二十四日、第四百七十八回の二十五日、第四百七十九回の二十六日、第四百八十回の二十七日、第四百八十一回の二十八日、第四百八十二回の二十九日、第四百八十三回の三十日、第四百八十四回の三十一日、第四百八十五回の十二月一日、第四百八十六回の二日、第四百八十七回の三日、第四百八十八回の四日、第四百八十九回の五日、第四百九十回の六日、第四百九十一回の七日、第四百九十二回の八日、第四百九十三回の九日、第四百九十四回の十日、第四百九十五回の十一日、第四百九十六回の十二日、第四百九十七回の十三日、第四百九十八回の十四日、第四百九十九回の十五日、第五百回の十六日、第五百一回の十七日、第五百二回の十八日、第五百三回の十九日、第五百四回の二十日、第五百五回の二十一日、第五百六回の二十二日、第五百七回の二十三日、第五百八回の二十四日、第五百九回の二十五日、第五百十回の二十六日、第五百十一回の二十七日、第五百十二回の二十八日、第五百十三回の二十九日、第五百十四回の三十日、第五百十五回の三十一日、第五百十六回の十二月一日、第五百十七回の二日、第五百十八回の三日、第五百十九回の四日、第五百二十回の五日、第五百二十一回の六日、第五百二十二回の七日、第五百二十三回の八日、第五百二十四回の九日、第五百二十五回の十日、第五百二十六回の十一日、第五百二十七回の十二日、第五百二十八回の十三日、第五百二十九回の十四日、第五百三十回の十五日、第五百三十一回の十六日、第五百三十二回の十七日、第五百三十三回の十八日、第五百三十四回の十九日、第五百三十五回の二十日、第五百三十六回の二十一日、第五百三十七回の二十二日、第五百三十八回の二十三日、第五百三十九回の二十四日、第五百四十回の二十五日、第五百四十一回の二十六日、第五百四十二回の二十七日、第五百四十三回の二十八日、第五百四十四回の二十九日、第五百四十五回の三十日、第五百四十六回の三十一日、第五百四十七回の十二月一日、第五百四十八回の二日、第五百四十九回の三日、第五百五十回の四日、第五百五十一回の五日、第五百五十二回の六日、第五百五十三回の七日、第五百五十四回の八日、第五百五十五回の九日、第五百五十六回の十日、第五百五十七回の十一日、第五百五十八回の十二日、第五百五十九回の十三日、第五百六十回の十四日、第五百六十一回の十五日、第五百六十二回の十六日、第五百六十三回の十七日、第五百六十四回の十八日、第五百六十五回の十九日、第五百六十六回の二十日、第五百六十七回の二十一日、第五百六十八回の二十二日、第五百六十九回の二十三日、第五百七十回の二十四日、第五百七十一回の二十五日、第五百七十二回の二十六日、第五百七十三回の二十七日、第五百七十四回の二十八日、第五百七十五回の二十九日、第五百七十六回の三十日、第五百七十七回の三十一日、第五百七十八回の十二月一日、第五百七十九回の二日、第五百八十回の三日、第五百八十一回の四日、第五百八十二回の五日、第五百八十三回の六日、第五百八十四回の七日、第五百八十五回の八日、第五百八十六回の九日、第五百八十七回の十日、第五百八十八回の十一日、第五百八十九回の十二日、第五百九十回の十三日、第五百九十一回の十四日、第五百九十二回の十五日、第五百九十三回の十六日、第五百九十四回の十七日、第五百九十五回の十八日、第五百九十六回の十九日、第五百九十七回の二十日、第五百九十八回の二十一日、第五百九十九回の二十二日、第六百回の二十三日、第六百一回の二十四日、第六百二回の二十五日、第六百三回の二十六日、第六百四回の二十七日、第六百五回の二十八日、第六百六回の二十九日、第六百七回の三十日、第六百八回の三十一日、第六百九回の十二月一日、第六百十回の二日、第六百十一回の三日、第六百十二回の四日、第六百十三回の五日、第六百十四回の六日、第六百十五回の七日、第六百十六回の八日、第六百十七回の九日、第六百十八回の十日、第六百十九回の十一日、第六百二十回の十二日、第六百二十一回の十三日、第六百二十二回の十四日、第六百二十三回の十五日、第六百二十四回の十六日、第六百二十五回の十七日、第六百二十六回の十八日、第六百二十七回の十九日、第六百二十八回の二十日、第六百二十九回の二十一日、第六百三十回の二十二日、第六百三十一回の二十三日、第六百三十二回の二十四日、第六百三十三回の二十五日、第六百三十四回の二十六日、第六百三十五回の二十七日、第六百三十六回の二十八日、第六百三十七回の二十九日、第六百三十八回の三十日、第六百三十九回の三十一日、第六百四十回の十二月一日、第六百四十一回の二日、第六百四十二回の三日、第六百四十三回の四日、第六百四十四回の五日、第六百四十五回の六日、第六百四十六回の七日、第六百四十七回の八日、第六百四十八回の九日、第六百四十九回の十日、第六百五十回の十一日、第六百五十一回の十二日、第六百五十二回の十三日、第六百五十三回の十四日、第六百五十四回の十五日、第六百五十五回の十六日、第六百五十六回の十七日、第六百五十七回の十八日、第六百五十八回の十九日、第六百五十九回の二十日、第六百六十回の二十一日、第六百六十一回の二十二日、第六百六十二回の二十三日、第六百六十三回の二十四日、第六百六十四回の二十五日、第六百六十五回の二十六日、第六百六十六回の二十七日、第六百六十七回の二十八日、第六百六十八回の二十九日、第六百六十九回の三十日、第六百七十回の三十一日、第六百七十一回の十二月一日、第六百七十二回の二日、第六百七十三回の三日、第六百七十四回の四日、第六百七十五回の五日、第六百七十六回の六日、第六百七十七回の七日、第六百七十八回の八日、第六百七十九回の九日、第六百八十回の十日、第六百八十一回の十一日、第六百八十二回の十二日、第六百八十三回の十三日、第六百八十四回の十四日、第六百八十五回の十五日、第六百八十六回の十六日、第六百八十七回の十七日、第六百八十八回の十八日、第六百八十九回の十九日、第六百九十回の二十日、第六百九十一回の二十一日、第六百九十二回の二十二日、第六百九十三回の二十三日、第六百九十四回の二十四日、第六百九十五回の二十五日、第六百九十六回の二十六日、第六百九十七回の二十七日、第六百九十八回の二十八日、第六百九十九回の二十九日、第七百回の三十日、第七百一回の三十一日、第七百二回の十二月一日、第七百三回の二日、第七百四回の三日、第七百五回の四日、第七百六回の五日、第七百七回の六日、第七百八回の七日、第七百九回の八日、第七百十回の九日、第七百十一回の十日、第七百十二回の十一日、第七百十三回の十二日、第七百十四回の十三日、第七百十五回の十四日、第七百十六回の十五日、第七百十七回の十六日、第七百十八回の十七日、第七百十九回の十八日、第七百二十回の十九日、第七百二十一回の二十日、第七百二十二回の二十一日、第七百二十三回の二十二日、第七百二十四回の二十三日、第七百二十五回の二十四日、第七百二十六回の二十五日、第七百二十七回の二十六日、第七百二十八回の二十七日、第七百二十九回の二十八日、第七百三十回の二十九日、第七百三十一回の三十日、第七百三十二回の三十一日、第七百三十三回の十二月一日、第七百三十四回の二日、第七百三十五回の三日、第七百三十六回の四日、第七百三十七回の五日、第七百三十八回の六日、第七百三十九回の七日、第七百四十回の八日、第七百四十一回の九日、第七百四十二回の十日、第七百四十三回の十一日、第七百四十四回の十二日、第七百四十五回の十三日、第七百四十六回の十四日、第七百四十七回の十五日、第七百四十八回の十六日、第七百四十九回の十七日、第七百五十回の十八日、第七百五十一回の十九日、第七百五十二回の二十日、第七百五十三回の二十一日、第七百五十四回の二十二日、第七百五十五回の二十三日、第七百五十六回の二十四日、第七百五十七回の二十五日、第七百五十八回の二十六日、第七百五十九回の二十七日、第七百六十回の二十八日、第七百六十一回の二十九日、第七百六十二回の三十日、第七百六十三回の三十一日、第七百六十四回の十二月一日、第七百六十五回の二日、第七百六十六回の三日、第七百六十七回の四日、第七百六十八回の五日、第七百六十九回の六日、第七百七十回の七日、第七百七十一回の八日、第七百七十二回の九日、第七百七十三回の十日、第七百七十四回の十一日、第七百七十五回の十二日、第七百七十六回の十三日、第七百七十七回の十四日、第七百七十八回の十五日、第七百七十九回の十六日、第七百八十回の十七日、第七百八十一回の十八日、第七百八十二回の十九日、第七百八十三回の二十日、第七百八十四回の二十一日、第七百八十五回の二十二日、第七百八十六回の二十三日、第七百八十七回の二十四日、第七百八十八回の二十五日、第七百八十九回の二十六日、第七百九十回の二十七日、第七百九十一回の二十八日、第七百九十二回の二十九日、第七百九十三回の三十日、第七百九十四回の三十一日、第七百九十五回の十二月一日、第七百九十六回の二日、第七百九十七回の三日、第七百九十八回の四日、第七百九十九回の五日、第八百回の六日、第八百一回の七日、第八百二回の八日、第八百三回の九日、第八百四回の十日、第八百五回の十一日、第八百六回の十二日、第八百七回の十三日、第八百八回の十四日、第八百九回の十五日、第八百十回の十六日、第八百十一回の十七日、第八百十二回の十八日、第八百十三回の十九日、第八百十四回の二十日、第八百十五回の二十一日、第八百十六回の二十二日、第八百十七回の二十三日、第八百十八回の二十四日、第八百十九回の二十五日、第八百二十回の二十六日、第八百二十一回の二十七日、第八百二十二回の二十八日、第八百二十三回の二十九日、第八百二十四回の三十日、第八百二十五回の三十一日、第八百二十六回の十二月一日、第八百二十七回の二日、第八百二十八回の三日、第八百二十九回の四日、第八百三十回の五日、第八百三十一回の六日、第八百三十二回の七日、第八百三十三回の八日、第八百三十四回の九日、第八百三十五回の十日、第八百三十六回の十一日、第八百三十七回の十二日、第八百三十八回の十三日、第八百三十九回の十四日、第八百四十回の十五日、第八百四十一回の十六日、第八百四十二回の十七日、第八百四十三回の十八日、第八百四十四回の十九日、第八百四十五回の二十日、第八百四十六回の二十一日、第八百四十七回の二十二日、第八百四十八回の二十三日、第八百四十九回の二十四日、第八百五十回の二十五日、第八百五十一回の二十六日、第八百五十二回の二十七日、第八百五十三回の二十八日、第八百五十四回の二十九日、第八百五十五回の三十日、第八百五十六回の三十一日、第八百五十七回の十二月一日、第八百五十八回の二日、第八百五十九回の三日、第八百六十回の四日、第八百六十一回の五日、第八百六十二回の六日、第八百六十三回の七日、第八百六十四回の八日、第八百六十五回の九日、第八百六十六回の十日、第八百六十七回の十一日、第八百六十八回の十二日、第八百六十九回の十三日、第八百七十回の十四日、第八百七十一回の十五日、第八百七十二回の十六日、第八百七十三回の十七日、第八百七十四回の十八日、第八百七十五回の十九日、第八百七十六回の二十日、第八百七十七回の二十一日、第八百七十八回の二十二日、第八百七十九回の二十三日、第八百八十回の二十四日、第八百八十一回の二十五日、第八百八十二回の二十六日、第八百八十三回の二十七日、第八百八十四回の二十八日、第八百八十五回の二十九日、第八百八十六回の三十日、第八百八十七回の三十一日、第八百八十八回の十二月一日、第八百八十九回の二日、第八百九十回の三日、第八百九十一回の四日、第八百九十二回の五日、第八百九十三回の六日、第八百九十四回の七日、第八百九十五回の八日、第八百九十六回の九日、第八百九十七回の十日、第八百九十八回の十一日、第八百九十九回の十二日、第九百回の十三日、第九百一回の十四日、第九百二回の十五日、第九百三回の十六日、第九百四回の十七日、第九百五回の十八日、第九百六回の十九日、第九百七回の二十日、第九百八回の二十一日、第九百九回の二十二日、第九百十回の二十三日、第九百十一回の二十四日、第九百十二回の二十五日、第九百十三回の二十六日、第九百十四回の二十七日、第九百十五回の二十八日、第九百十六回の二十九日、第九百十七回の三十日、第九百十八回の三十一日、第九百十九回の十二月一日、第九百二十回の二日、第九百二十一回の三日、第九百二十二回の四日、第九百二十三回の五日、第九百二十四回の六日、第九百二十五回の七日、第九百二十六回の八日、第九百二十七回の九日、第九百二十八回の十日、第九百二十九回の十一日、第九百三十回の十二日、第九百三十一回の十三日、第九百三十二回の十四日、第九百三十三回の十五日、第九百三十四回の十六日、第九百三十五回の十七日、第九百三十六回の十八日、第九百三十七回の十九日、第九百三十八回の二十日、第九百三十九回の二十一日、第九百四十回の二十二日、第九百四十一回の二十三日、第九百四十二回の二十四日、第九百四十三回の二十五日、第九百四十四回の二十六日、第九百四十五回の二十七日、第九百四十六回の二十八日、第九百四十七回の二十九日、第九百四十八回の三十日、第九百四十九回の三十一日、第九百五十回の十二月一日、第九百五十一回の二日、第九百五十二回の三日、第九百五十三回の四日、第九百五十四回の五日、第九百五十五回の六日、第九百五十六回の七日、第九百五十七回の八日、第九百五十八回の九日、第九百五十九回の十日、第九百六十回の十一日、第九百六十一回の十二日、第九百六十二回の十三日、第九百六十三回の十四日、第九百六十四回の十五日、第九百六十五回の十六日、第九百六十六回の十七日、第九百六十七回の十八日、第九百六十八回の十九日、第九百六十九回の二十日、第九百七十回の二十一日、第九百七十一回の二十二日、第九百七十二回の二十三日、第九百七十三回の二十四日、第九百七十四回の二十五日、第九百七十五回の二十六日、第九百七十六回の二十七日、第九百七十七回の二十八日、第九百七十八回の二十九日、第九百七十九回の三十日、第九百八十回の三十一日、第九百八十一回の十二月一日、第九百八十二回の二日、第九百八十三回の三日、第九百八十四回の四日、第九百八十五回の五日、第九百八十六回の六日、第九百八十七回の七日、第九百八十八回の八日、第九百八十九回の九日、第九百九十回の十日、第九百九十一回の十一日、第九百九十二回の十二日、第九百九十三回の十三日、第九百九十四回の十四日、第九百九十五回の十五日、第九百九十六回の十六日、第九百九十七回の十七日、第九百九十八回の十八日、第九百九十九回の十九日、第千回の二十日、第千一回の二十一日、第千二回の二十二日、第千三回の二十三日、第千四回の二十四日、第千五回の二十五日、第千六回の二十六日、第千七回の二十七日、第千八回の二十八日、第千九回の二十九日、第千十回の三十日、第千十一回の三十一日、第千十二回の十二月一日、第千十三回の二日、第千十四回の三日、第千十五回の四日、第千十六回の五日、第千十七回の六日、第千十八回の七日、第千十九回の八日、第千二十回の九日、第千二十一回の十日、第千二十二回の十一日、第千二十三回の十二日、第千二十四回の十三日、第千二十五回の十四日、第千二十六回の十五日、第千二十七回の十六日、第千二十八回の十七日、第千二十九回の十八日、第千三十回の十九日、第千三十一回の二十日、第千三十二回の二十一日、第千三十三回の二十二日、第千三十四回の二十三日、第千三十五回の二十四日、第千三十六回の二十五日、第千三十七回の二十六日、第千三十八回の二十七日、第千三十九回の二十八日、第千四十回の二十九日、第千四十一回の三十日、第千四十二回の三十一日、第千四十三回の十二月一日、第千四十四回の二日、第千四十五回の三日、第千四十六回の四日、第千四十七回の五日、第千四十八回の六日、第千四十九回の七日、第千五十回の八日、第千五十一回の九日、第千五十二回の十日、第千五十三回の十一日、第千五十四回の十二日、第千五十五回の十三日、第千五十六回の十四日、第千五十七回の十五日、第千五十八回の十六日、第千五十九回の十七日、第千六十回の十八日、第千六十一回の十九日、第千六十二回の二十日、第千六十三回の二十一日、第千六十四回の二十二日、第千六十五回の二十三日、第千六十六回の二十四日、第千六十七回の二十五日、第千六十八回の二十六日、第千六十九回の二十七日、第千七十回の二十八日、第千七十一回の二十九日、第千七十二回の三十日、第千七十三回の三十一日、第千七十四回の十二月一日、第千七十五回の二日、第千七十六回の三日、第千七十七回の四日、第千七十八回の五日、第千七十九回の六日、第千八十回の七日、第千八十一回の八日、第千八十二回の九日、第千八十三回の十日、第千八十四回の十一日、第千八十五回の十二日、第千八十六回の十三日、第千八十七回の十四日、第千八十八回の十五日、第千八十九回の十六日、第千九十回の十七日、第千九十一回の十八日、第千九十二回の十九日、第千九十三回の二十日、第千九十四回の二十一日、第千九十五回の二十二日、第千九十六回の二十三日、第千九十七回の二十四日、第千九十八回の二十五日、第千九十九回の二十六日、第千百回の二十七日、第千百一回の二十八日、第千百二回の二十九日、第千百三回の三十日、第千百四回の三十一日、第千百五回の十二月一日、第千百六回の二日、第千百七回の三日、第千百八回の四日、第千百九回の五日、第千百十回の六日、

家庭と婦人

小兒の勁敵 ヂフテリアの症狀

季節に因る傳染病の豫防 (一)

臺北帝國大學醫學部長 醫學博士 杉江四郎

兒童の傳染病の發生には、季節の關係の顯著なるものが多い。即ち夏秋の候に發生多きものと、冬春の候に發生多きものとがある。前者は消化器系統の傳染病に多く、後者は呼吸器系統の傳染病に多い。

かやうに傳染病の關係について各その適時期を異にすることは、それぞれ發病に適する條件を具備するからである。

ヂフテリアは、秋冬の候より初春の候にかけて、最も多く發生流行する小兒の傳染病にして、全國に於てヂフテリアのために死亡する小兒は、毎年數しい數に上つて居る。

前フレーブス及びレフレル氏等に依て發見されたるヂフテリア菌によつて發病するもので、主として十歳までの小兒が侵され易いが、稀に兩親、或は年齢の幼兒が一番先きに罹るのである。大人と雖も罹病の危險ある場合なきにあらずである。

從らばヂフテリア菌は、どんな經路をたどつて、人體に侵入するかと云ふに、元來は患者の咳嗽、喀痰等の飛沫に附着して居るものであるから、患者が咳嗽をするとき、或は話をするとき、この飛沫が空氣中に飛散し、或は附着せる手指、食物、玩具等を經て口腔内に入るのである。

ヂフテリアは通常二日乃至五日間の潛伏期を經て、發病に至るものである。今その發病に就て概略を述ぶれば、病菌の侵入により咽喉部に充血腫脹を來すと共に、體溫の昇降は區々なれども、概ね三十八度前後の發熱を見、脈搏は稍々數を增し、呼吸は稍々迫り、食慾は減退し、全身倦怠の感を訴へ、或は嘔吐を催すことあり、又頭痛を訴へ、或は輕度の意識障礙を來すことあり、或は輕度の蛋白尿を證することあり、或は輕度の黄疸を呈することあり、或は輕度の皮膚發疹を見ることあり、或は輕度の神經症狀を呈することあり、或は輕度の心臟障礙を來すことあり、或は輕度の腎臟障礙を來すことあり、或は輕度の肝臟障礙を來すことあり、或は輕度の膵臟障礙を來すことあり、或は輕度の脾臟障礙を來すことあり、或は輕度の副腎障礙を來すことあり、或は輕度の甲狀腺障礙を來すことあり、或は輕度の下垂體障礙を來すことあり、或は輕度の松果體障礙を來すことあり、或は輕度の胸腺障礙を來すことあり、或は輕度の生殖腺障礙を來すことあり、或は輕度の副甲狀腺障礙を來すことあり、或は輕度の膵島障礙を來すことあり、或は輕度の腸管

國定忠次（78）

長谷川伸作
岩田專太郎畫

大雨の前（二）

親三郎は柔和な顔をして見せ、

「お前人さん方。忠次といふのは私の手ぢやございませんよ」

「左様でしたか、さういふ訳ではねえんだが……」

「これは済んだ失礼」

浪人途中、手軽くいってゐる。

「一人二分づつ三人で三分、もう二分あれば一両になる、それだけ貸してくれないか、喜んで帰って行く、と、忠次郎、

「しめしめ」

「ご口癖でございますが」

「ア、ただいま」

「只今出た子つ家の者です」

「もう、殺傷。それは千万なことに存じまして、どうぞ御勘弁を願います」

二三名倒れる。

「折角のお越し、無にしては失礼だ。ただ今酒肴を調へて参ります、酒を飲まうたらば、一旦、引き揚げて行き、酒を持参しよう」

親分は口を極めて、伊三郎を褒めて、

「家の親分はどんな悪い奴でも、口に出して、あいつは悪い奴だといふ事がない、ですから今夜でも、伊三郎さんがあいつの事を悪い奴だとも悪い奴だとも仰しやらないのは先生だつて云やしねえ」

「親分、忠次郎は一人だつて居ります」

「だれに聞いた」

「伊三郎に聞きました」

「ふうむ」

「伊三郎に聞きしにした。

「メシ公」

「いゝ」

「それかこの間からやッとう皆行かれたがどうしたか」

「さうさんね、寝てゐます」

「だれかに打されたんでせう。それでなくて皆出た時だの隙だの、隙ありうしろ向ばかりが能え訳はねえでせう」

「俺に理屈をいふな」

「ねえ親分、皆さんて奴は駄目な男ですれ」

「何故」

「さうやめりまんか、野暮さんですよ」

初歩から複雑へ 映畫演技の研究（一）

赤松孝彦

現在の映畫製作の中には以前と違つてインテリゲンチヤの者が加分るが、これは今日の映畫製作の發達から云つて當然に要ふべきことである。映畫が大衆に與へる種類が大きければ大きい程映畫俳人の教養を必要とし、映畫製作者は大いに勉強しなければならない。從つて映畫の或る優の演技を批評するにしても、これとても一朝一夕にして上手に演じられるものでは決してない。

畫家になるには先づデッサンの研究から始め、次に開業指の練習をして少しもクルヒのない線が描けるやうになつて初めて水彩のカンバスに向つて繪を描くやうに、それと同様に映畫俳優も先づ簡單なスケヲチ風景の練習からはじめて映畫のクルセのないやうに練習して行かなければならない。身體のクルセを除去することに留意し、正しい線、正しい姿勢の持主に慣れなければ駄目である。それが出來ないうちは一人前の映畫俳優として世間に認められようなどとは思はないことである。

× ×

映畫俳優を志望せんとする若い人達は先づ第一歩として

『歩き方』

から始めなければならない。指定された五六間の距離を歩いて見ても、餘りに多くの癖があそこに見出される。ヒヨコ〳〵と鵜の様な尻を振つて歩く者などは全く見るに堪へられない、片方の肩がイヤに上つて眼もいい、片方の肩がイヤに下つて眼もいい格好そして歩く者があれば、又腰骨が左右に波を打つて、ちやうど首振が前の調子そも取つてゐる如き者などは實にその癖を矯正しないといけない。併し斯うした癖を矯正することは却々容易でなく、自分の癖を發見するにも、少し癖に關心にかゝる。百年生徒つても、少し癖に關心にかゝる。百年生徒つても、少し癖に關心にかゝる。百年生徒つても

臺灣日日新報
本日夕刊共十二頁
昭和十二年十月十四日 臺灣日日新報 (木曜日) 第一万三千四百九十二號
(第二版) (原稿配信)

社說

日本の態度は不動、不變だ 國際情勢も寧ろ樂觀して可

一

帝國の態度は、この問題が如何に小出くとも、また如何なる突發的事件を惹起し來るとも、断じて不動であるのだ。何んなれば、世界平和の爲に進め出じた我が帝國の主張であるから、日本である。何としても此の態度を打破し得ざる限り帝國の新しい國民に讓るか、その生存權さへ喪失せねばならぬからだ。その上に"持てる國"の日本である。決心して起ち上つた以上、國家も國民も戰うか分るかの大一番、眞に國運興隆の爲に邁進してゐるのである。

二

この點、たゞさへ第三國の誤解を招ふす様な言動をする必要も無いが、から自つて英國民が常になり日本を敵視するデニスチュアを示したからとて今更慌れに屈服四天下する譯ではない。進むべき途が數條ある場合なら兎も角であるが、國民總動員の時局下に於ては、此の吉路を今も決して疑はれてゐる。

臺灣工業化の原動力
府立工業試驗所の誕生
來年度豫算に首尾よくパス
中研工業部との關係は微妙

財務局の豫算第一次査定に於て首尾よくパスしたもののうち殖産關係の影を放つてゐるものに府立の工業試驗所新設費がある、此の工業試驗所設立の趣意は、產業奬勵の元締格たる殖產局と密接不可分の關係にあつて諸種の工業試驗を實施し以つて臺灣の工業化に端的に役立つ如き試驗機關を造るといふことに在るその經費(經常費)といふ相當大規模のものであること勿論である、比較的多額に來年度の豫算を見るに當つた所以は今や臺灣工業化の原動力たらしめるといふ重點を置かれたためである此の機關はやがてその內容が整備して見なければ眞に何となる方面の工業試驗に重點を置くか決斷することは出來ないが、要するにその目的とするところは臺灣內外の有用資源を調べ以つて臺灣各島に起し得べき諸工業につき大規模の中間工業試驗(經濟的試驗)を實施することにより有力企業家に提供し以つて次ぐと之等を實行に移すといふのが眼目である、更に又既成の工業に對しても一部の擴張を敢行すれば著しい生產費の節減を期待し得るといふ種な事柄に關してもその相談に應ずるといふのも本機關の重要使命の一つであらう、而して之に據置される技術者は技師だけでも二十名或は三十名と稱せられ現在の中研工業部の數倍の陣容になるものの如くである、ところで中研工業部との關係はどうなるかといふに、之は旅に改めて機會に立つべく、此の兩者の連絡調節は至極處分について適當な方法が期待されてゐる

熱帶園藝の
試驗費も承認
農產加工試驗が使命

特產農業振興の來年度經費(來年度經費)來年一月以降七月までの豫算額は來る十五日までに確定豫算額として發表されるが、四工業は總額に於ては大いに增額されるものとして注目されてゐる、本試驗場の使命は、パナナ、柑橘その他熱帶園藝の農產加工試驗及びパインの品種改良、肥培管理等の改善、蔬菜物の利用等の研究調査を主とするものである從來の業務に關する經費(臨時費)約一万圓で、他方合同パインとしても一万圓位は出すことになつてゐる、即ち本年度の豫算額は約二万圓(三年繼續)を以て施設費約一万圓、經常費約一万圓を計上することになつてゐる、眼目は一般的農產加工試驗の實施にあり、特に果實罐詰の改良、製造技術の指導、副產物の利用等に重點を置くことになる

臺鑛の利益は
其儘日鑛へ引繼
增資株二千株には
一株三圓半の交付金

日本鑛業はさきに臺灣鑛業會併の件を決し資本金二億六千万圓を十万圓增加して二億六千万圓とすることとなり法律上の手續を終了して正式に臺鑛が日鑛と吸收合併されることになつてゐるが、其の合併の結果は十一月一日から合併後の新會社の營業となるが、其の合併の結果は十一月一日から合併後の新會社の營業となるが、其の合併の結果は十一月一日から合併後の新會社の營業とな

旅客機の電氣裝置

★…アメリカ技師の設計圖

現在アメリカの大飛行機の殆んどは、乘客の數が二十人乃至三十人位のものであるが、これらの旅客機の中で、最も多くの乘客を運ぶことの出來るのは、ダグラス會社製の「DC-2」型機である。この飛行機は、乘客の數が十四人乃至十六人、乘組員が三人、それに郵便物や荷物を合せて、二千キロ以上の距離を飛ぶことが出來る。

この飛行機の特徴は、何といつても、その安全性にある。

例へば、エンジンの故障である。この飛行機は、二臺のエンジンを備へてゐるが、一臺のエンジンが故障を起しても、殘りの一臺のエンジンで、飛行を續けることが出來る。

また、操縱裝置の故障である。この飛行機は、操縱裝置が二重になつてゐるので、一方の操縱裝置が故障を起しても、他の操縱裝置で、飛行を續けることが出來る。

また、燃料タンクの故障である。この飛行機は、燃料タンクが、翼の中に、左右二つ、胴體の中に、一つ、合計三つ設けられてゐるので、一つのタンクが故障を起しても、殘りのタンクの燃料で、飛行を續けることが出來る。

また、火災である。この飛行機は、エンジンの火災を防ぐために、エンジンの周圍を、厚い鐵板で、圍んである。

また、着陸裝置の故障である。この飛行機は、着陸裝置が、故障を起しても、胴體着陸が出來るやうに、胴體の下面が、丈夫に出來てゐる。

また、操縱索の故障である。この飛行機は、操縱索が、故障を起しても、操縱索の一部を、取換へるだけで、飛行を續けることが出來る。

また、電氣裝置の故障である。この飛行機は、電氣裝置が、故障を起しても、豫備の電氣裝置で、飛行を續けることが出來る。

また、燃料の故障である。この飛行機は、燃料が、故障を起しても、豫備の燃料で、飛行を續けることが出來る。

また、油壓裝置の故障である。この飛行機は、油壓裝置が、故障を起しても、豫備の油壓裝置で、飛行を續けることが出來る。

また、計器の故障である。この飛行機は、計器が、故障を起しても、豫備の計器で、飛行を續けることが出來る。

また、無線電信機の故障である。この飛行機は、無線電信機が、故障を起しても、豫備の無線電信機で、飛行を續けることが出來る。

また、自動操縱裝置の故障である。この飛行機は、自動操縱裝置が、故障を起しても、豫備の自動操縱裝置